



下関短期大学附属高等学校 女子ソフトボール部

今回のまちの主演は、昨年10月の県予選会で優勝し、今年3月に行われる全国大会に出場予定だった下関短期大学附属高等学校の女子ソフトボール部を紹介します。

**前を向いて
全国大会へ
再チャレンジ**
努力で勝ち取った栄冠

下関短期大学附属高等学校女子ソフトボール部は、昨年の10月に行われた、県予選で初戦を7-0、決勝を4-0で圧勝し、全国大会の出場権を獲得しました。残念ながら全国大会は中止になりましたが、部員数わずか9人で努力を重ねて勝ち取った栄冠でした。

**強い気持ちで
勝利につながる**

練習場を訪れると、大きな掛け声飛び交い、グラウンドは熱気に包まれていました。部員は、3年生5人、2年生4人、1年生4人。練習は週5日、1日3時間行います。



▲キャッチャーでキャプテンの吉光さん。大きな声でチームを引っ張ります。

部をまとめるキャプテンの吉光さんに話を伺いました。「練習は実戦的なものが多いですが、スリッパをグローブ代わりにしてボールを捕る練習をするなど、少し変わった練習もしています」。グローブより小さいスリッパでは、右手を添えてボールの中心を捉えないとキャッチできないので、グローブの芯でボールを捕球する練習になるそうです。今年のチームの特徴について聞いてみると、「個性的で、負けず嫌いな人が多いので、絶対に勝つんだという気持ちが強いです」。中学校1年生からバッテリーを組むピッチャーの榎壱さんとは息もぴったりです。

次の目標については、「全国大会が中止になってショックでしたが、今は、夏のインターハイに向けて気持ちを切り替えています。新しく入った1年生にも期待しています」





新規採用市職員ボイス

今月のテーマ

どんな職員になりたいですか



編集後記

■これまでの生活が一変し、改めて普通の生活のありがたさを感じます。少しでも皆さんが明るい気持ちになれるような紙面にしたいと思います。(ひ)

■全国大会が中止になっても、次の目標に向かって、ひたむきに練習をしている生徒に感動しました。市報も新メンバーで頑張ります。(き)

■はじめまして。これから市報をとおして皆さんのお役に立てたらと思っています。(と)



◀塚本祐介監督。「高校からソフトボールを始める部員もいます。新チームで全国大会を目指して再スタートです」



▶新1年生も入部し、練習に熱が入ります。精一杯のプレーにチームメートからの掛け声と笑顔があふれます。

全国大会勝利で恩返し

「ソフトボールは、スピードと判断力が大事です。練習のときから、ただ走るのではなくて、なぜ走るのかの意味を考えるようにしたり、試合のさまざまな場面で状況判断ができるように、実戦練習をしています」と話す塚本監督。チームの雰囲気については、「とても明るいムードで練習しています。集中して練習をやりませんが、うちのチームは髪を伸ばす部員も多く、練習が終われば、女の子らしく、楽しい高校生活を送ってみたいですね」

日々の部員への指導で心掛けていることについては、「日常生活の中でも『目配り・気配り・心配り』ができるようにいつも言っています」部員には、ソフトボールを通じて人間力も高めてもらいたいそうです。

「高校からソフトボールを始めた部員などが、3年生でチームを引っ張っていきけるまで成長した姿をみるとやりがいを感じますね」と笑顔で話します。

「部員が決して多いわけではないので、保護者やOGなど多くの方の協力があつてこそ、部員たちが練習や試合ができるのだと思います。全国大会に保護者やOGを連れて行って、勝利をプレゼントし、恩返しをしたいですね」

下関短期大学付属高等学校女子ソフトボール部の今後の活躍に、期待が寄せられます。